

農 大

令和5(2023)年度版

令和6年2月29日発行

愛知県立農業大学校



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2

Tel : 0564-51-1601 Fax : 0564-51-4831

E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp

ホームページ : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

海外派遣研修（オーストラリア）



CONTENTS

- 1 海外派遣研修の実施
- 2 専攻トピックス
- 3 農業技術研修等の修了
- 4 あいち農業経営塾修了
トピックス
- 5 進路セミナーの開催
生産高度化研修（ジネンジョ）の開催

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram



X (旧 Twitter)



オーストラリアでの「海外派遣研修」



2024. 1. 22 シドニー：ダーリング・ハーバー

令和6年1月18日（木）から1月25日（木）までの7泊8日、令和5年度の海外派遣研修を実施しました。

学生達は真夏のオーストラリアで農業事情を学び、言葉の壁を乗り越えながら、ホストファミリーとの絆を深めることができました。今年はベトナムも訪れ、様々な国の文化も学ぶことができました。

参加した2年生66名は、異なる文化や生活習慣に戸惑いつつも、日本では得られない文化や体験を享受できたことは一生の思い出になったと思います。卒業後の進路で活かしてくれることを期待しています。

【1月18日（木） 中部国際空港→ベトナムホーチミン】

ベトナムホーチミンでは統一会堂・ベンタイン市場・中央郵便局を視察し、ベトナムの歴史や交通事情について学びました。夕食はベトナム料理を食べましたが、独特の味付けに苦戦する学生も見られました。



【1月19日（金） ポーラル ファームステイ開始式、ホストファミリーとの対面】

シドニー空港到着後、各農家で農業体験をするために、ポーラルに向かいました。島岡副校長が英語で挨拶を行い、いよいよホストファミリーと対面です。皆とてもフレンドリーでした。学生も大きな声で挨拶するなど、一生懸命にコミュニケーションをとりながら各ファームステイへと出発していきます。



【1月20日（土）～1月22日（月） ポーラル 各ファームで滞在】

ファーム滞在中は農作業だけでなく、食事や余暇を一緒に楽しむこと、周辺農家等の見学、カンガルー等の野生動物を観察する機会もありました。短期間で体験するプログラムでしたが、とても充実していました。ホストファミリーは、農畜産物に対する学生の飼養・栽培管理の手際良さ、汗をかくことや汚れることを厭わない姿を称賛していました。



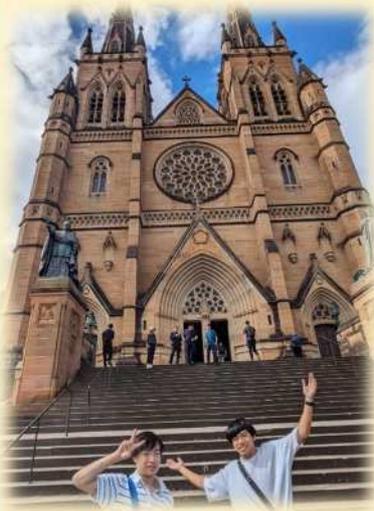
【1月23日（火）ボーラル お世話になったホストファミリーとのお別れ】

家族の一員として過ごした時間はあっという間に過ぎてしまいました。涙や笑顔での別れが印象的でした。中には、また遊びに来たいと言っている学生も。この出会いを今後も大切にしてくれると思います。



【1月23日（火）～24日（水）シドニー】

シドニーでは複数のグループで市内見学を行いました。学生たちはシーライフ水族館やボンダイ・ビーチ、タロンガ動物園など思い思いの場所を訪れていました。



【1月25日（木）シドニー→ベトナム→中部国際空港】

全員が無事帰国しました。愛知県は真冬の寒さで雪も降っていました。学生たちは「とても楽しかった。」「一生の思い出になった。」との感想を口にしていました。

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

（注）カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	7 (2)	5 (1)	9 (2)	15 (5)	14 (7)	15 (3)	15 (6)	10 (3)	90 (29)
2年	3 (1)	7 (2)	5 (1)	10 (0)	15 (7)	13 (3)	9 (6)	8 (4)	70 (24)
計	10 (3)	12 (3)	14 (3)	25 (5)	29 (14)	28 (6)	24 (12)	18 (7)	160 (53)



酪農

放牧場が完成しました！

最近少しずつ暖かくなってきました。計画していた放牧場がついに完成しました。広々とした放牧場でのんびりと自由気ままに過ごし、牧草をおいしそうに食べる牛たちを見ることができています。

牛も人間も暖かい日差しを浴びて、心も体もポカポカしています。また、楽しそうに広い放牧場ではしゃぐ牛たちを見ることができてすごく嬉しいです。緑いっぱいの放牧場は人間の心も癒してくれる「映え」な風景ですが、牛たちものびのびと育てあってほしいです。



養豚



養鶏

更衣室と飼料庫が完成しました！！

豚熱をはじめとする家畜伝染病の防疫対策強化のため、シャワー、トイレ付きの更衣室を設置しました。

今までは、養豚エリア内にある専攻室で専用作業着に着替え豚舎に入っていたのですが、今後は、養豚エリア境界にある更衣室で脱衣し、シャワーを浴びてから作業着に着替え豚舎に入ることができるようになりました。また、養豚飼料は、共同飼料庫から運搬していたのですが、養豚エリア境界に飼料庫を建築し、エリア外に出ることなく豚舎内に飼料を持ち込むことができるようになりました。

更衣室、飼料庫の設置により、今まで以上に衛生対策強化を図り、病気を持ち込ませない環境を作りたいと思っています。





レーザーレベラーで次作の準備！

次作の準備としてレーザーレベラーでの整地作業が始まりました。レーザーレベラーとは、自動制御によりほ場を均平にする農業機械で、代掻き作業の効率が良くなり、高度な水管理が可能となります。

農機メーカー協力の元、使い方の説明と実演を行いました。次作の作付けに向けて、レーザーレベラーを使ってほ場準備を進めていきます。



ニンジン効果で効率的に堆肥散布♪

2月中旬の冷たい雨の日。この週はケチって半分に減らした元肥の不足分を、堆肥を蒔きまくって補うスペシャルウィーク。養豚・養鶏専攻協力のもと、4台の運搬車が堆肥を畜産エリアから果樹園へ爆走&爆散。「早く終われば残りは休講」というニンジン効果もあり、予想を遙かに上回る効率で終了。普段もこうしろよとは言わないけれど農業・作業の本質（やりゃ終わる）は感じ取れたかな。で勢い「雨だしそのまま洗った方が効率的じゃね」と言いだし実践。実学からの学び？恐るべし。けど何故かこの先に一抹の不安も。本日雨、視界不良、、、



毎年恒例！ フラワーバレンタイン

感謝の気持ちを込めてバレンタインに花を贈ろう！と呼びかけるこの行事にあやかり、実習販売に力を入れるようになってから早数年が経ちました。

今年は、バレンタイン当日が実習販日と重なる絶好のチャンスが到来。学生たちは、売上目標額を設定して計画的に商品を作り、ポップを新調するなど真剣に準備をしてくれました。

当日は、学生手作りのミニブーケや単品売りのバラがよく売れ、無事に売上目標額を達成でき、大成功でした。来年は目標をもう少し高くしても大丈夫そうです。





農大2年間の集大成！ 卒業論文発表会を開催しました！！

鉢緑専攻では、専攻内の卒業論文発表会を開催しました。今年度は2年生3名がパワーポイントを用いて関係者の前で農大での集大成を発表しました。

聴講者からの難しい質問も丁寧に説明し、自信に満ち溢れた2年生の成長を感じた瞬間でした。また、発表を聴講していた1年生も自分がどのようにプロジェクトを進めるか考えるきっかけになった様子でした。

これから社会人として旅立つ2年生、次期専攻を担う1年生！みんなそれぞれ頑張ってください！



2年生の実習がすべて終了し、1年生の代に！

2年生は2月上旬で専攻実習が終了し、3月で卒業を迎えます。先輩がいなくなってからは1年生のみで専攻実習を行っており、自分たちが先輩になる前の準備期間です。1年生は主体的に動いており、協力し合いながら管理作業や出荷調整作業をしっかりとこなしています。

これから暖かくなるにつれて野菜の収量が増加し、忙しくなりますが、持ち前のチームワークを活かして各種作業に取り組んでほしいです！



暖かくなり春夏策の準備始まる！

2月に入って暖かくなり、植物の生育が急激に早くなってきました。1月に播種していた植物も大きくなり、キャベツなどの定植作業が増え、毎週のように種まきやトンネル張りもあり、忙しくなっています。

今年は新たに接ぎ木にも挑戦していて、第一弾としてスイカの接ぎ木を行いました。慣れない作業に学生は困惑している様子でしたが、最後には慣れた手つきになりました。今育てている野菜は4月頃から徐々に収穫が始まる予定です。



令和5年度 農業技術研修修了

農業技術研修の閉講式を1月29日(月)に行い、研修生27名が修了を迎えました。この研修は、離職を機に新たに農業を始めようとする方々を対象に、岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として本校で行っているものです。

令和5年5月9日から9か月間、真夏の猛暑日や風雨の日も休むことなく延べ158日間(合計930時間)にわたって行われました。

修了式に先立ち、1月12日には各グループで取り組んだ、ハクサイ、ダイコン等の露地野菜に関するプロジェクト発表会を行い、研修で習得した栽培の知識をしっかりと発表されました。さらに、1月26日には卒論発表会を開き、全員が今後の就農への決意や経営方針等について発表しました。

修了後は、独立自営就農する人、農業関連法人に就職する人など様々です。各地域の皆様の新たな仲間となりますので、今後とも御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



研修を修了して(研修生から)



【鈴木利和さん】

露地物野菜を中心に実習を行い、収穫の喜びと市場や直売での対面販売を経験しました。校外学習では、先輩農家のほ場見学、産直市場の調査、普段は入ることが出来ない農業試験場なども見学できました。これからは、妻と私でイチゴ、水稲に加えて研修で学んだ露地野菜栽培にチャレンジしようと思っています。



【鈴木孝昌さん】

実習では野菜の収穫、調製、農業機械の運転等、座学では各種栽培論・土壌、経営、流通、法律等多岐にわたる農業経営に必要な勉強ができました。その中で感じたのは、何とか就農して生計を立てられるようにとの先生の配慮でした。運良く農地も借りられて、研修修了後にナス農家として就農する地歩を固めることが出来ました。



【杉山糸さん】

“農業ど素人、の私でも自然薯農家として新しいスタートをきることになりました。研修の枠にとらわれず、自分が疑問に思ったことは他の先生方からご指導いただける環境で、農大のみなさんが自分の未来を応援してくださっていました。農業技術研修のすべてに感謝しています。



【小笠原周一さん】

実家は非農家ですが、研修を受け新規就農を目指す上でどのような知識が必要なのか、今後への道筋と課題がクッキリと見えてきて、漠然とした不安が消えて迷いなく歩みを進めていくことができるようになりました。

今後はブドウ農家で栽培技術を学び、数年後に独立し、新規就農を目指します。



【鈴木克也さん】

スーパーを家族経営していたこともあり、青果に関する知識、流通等はある程度わかっていましたが、この研修を通して様々な栽培技術・知識、各種法令や制度を知ることができました。何よりも大きなものは人脈で互いに協力し、情報交換ができることが大きかったです。

令和5年度 あいち農業経営塾修了

2月14日（水）、令和5年度あいち農業経営塾の経営計画発表会及び閉講式を開催し、19名が半年間、全12回の講座を修了しました。

12回の講座の前半では、専門家による講演により、財務管理、労務管理、マーケティング、組織活動などの農業経営に必要な知識を学びました。受講生は真剣に各講師の話を聴くとともに、質問をし、知識を深めました。後半は、中小企業診断士の講師から直接指導を受け、5年後を目標とした経営計画を作成しました。SWOT分析に始まり、グループ討議、個別面談などにより、経営計画の作成を進めました。

経営計画発表会では、受講生同志の質疑応答が活発に行われ、中身の濃い発表会となりました。



研修を修了して(研修生から)

- 経営に関する知識や労務管理のアプローチのやり方等、基本的な知識を得られ、今後の経営に生かしていきたいと考えます。
- 同じ意識を持った仲間たちとのやり取りは自分の気持ちを未来へ向かわすのに、ものすごく影響を与えてくれたと思います。
- 自分の中で曖昧であった経営のことが詳しくわかるようになりました。従業員の立場からの計画と会社としての計画を作成し、自分がこれからどうしていきたいか、何をしなくてはいけないかがより具体的にわかりました。
- 経営計画という一つの形にできたことに大きな意味があると思います。計画通りにいかないこともあると思いますが、計画の練り直しも含めて取り組んでいきます。
- 同期のみんなと仲良くなり人脈が広がり、いろいろな情報が得られました。先生方は親身に相談や適切なアドバイスをくれて、とてもありがたかったです。ありがとうございました。

トピックス

第5回進路セミナーを開催しました

2月6日(火)、1年生を対象に今年度最後となる進路セミナーを開催しました。

今回は、「面接の心得」と題して、ハローワーク刈谷から拝借したDVDで、エントリーシートの書き方や会社説明会でのポイント、個人面接の対策を学びました。

また、求人票の記入例を参照しながら各項目の見方の説明を行いました。

2月末には合同就職相談会も控えており、学生達は真剣な表情で受講していました。

今後、面接本番を想定した「模擬面接会」なども計画し、学生の就職を支援していきます。

**生産高度化研修(ジネンジョの生産安定)を開催しました**

2月13日(火)に本校において、愛知県じねんじょ主産地協議会と本校との共催で「ジネンジョの生産安定について」をテーマに研修会を開催しました。県内の生産者及び関係機関から125名の参加がありました。

研修会では、①山間農業研究所 甲村技師より「ジネンジョの研究成果の報告」、②尾張農林水産事務所稲沢駐在室 磯村専門員と新城設楽農林水産事務所新城駐在室 市川主任専門員より「ジネンジョ新肥料を用いた栽培事例」、③農業総合試験場 大野主任専門員より「地域増殖ほの課題及び栽培管理のポイント」の各講演がありました。

そして最後に、農業総合試験場の大野主任専門員を座長に、総合質疑が行われました。総合質疑の場では、多くの方から質問があり、講師が一つ一つ丁寧に答える中で、一層理解が深まったように感じられました。また、参加者のジネンジョ栽培に対する熱意も感じることができました。研修後のアンケートにおいても、「ためになった」「もっと事例を紹介してほしい」などの意見をいただき、有意義な研修会となりました。

